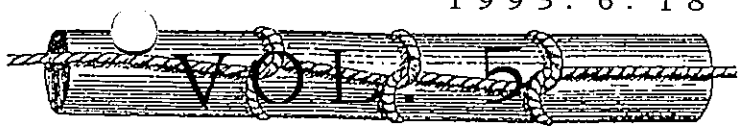
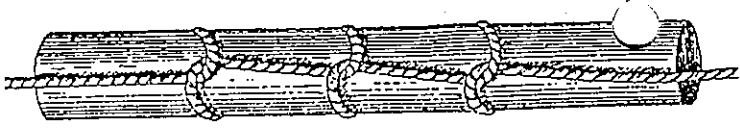


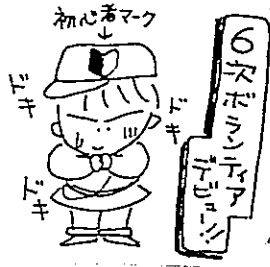
舵輪



第6次 展帆ボランティア

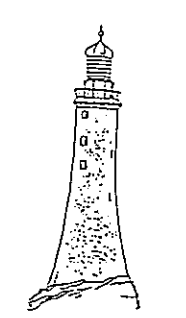
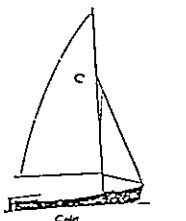
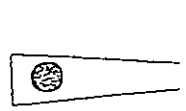
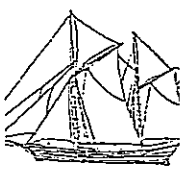
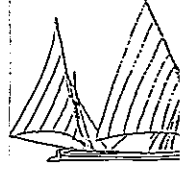
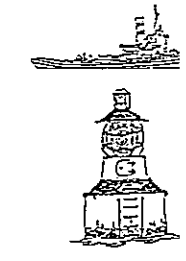
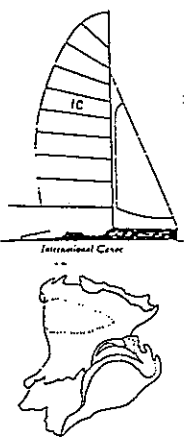
デビュウ
 さる6月6日(日)に行われた
 総帆展帆は、総勢104名の展帆
 ボランティアの方が参加され、海
 王丸の29枚の帆をひろげました。
 この中には第6次展帆ボランテ
 ィアの方22名が含まれ、新たに
 展帆ボランティアの仲間入りをさ
 れました。

また、横浜の日本丸からも2人
 のボランティアが参加され、豊帆
 後の反省会で紹介されました。
 7月4日の総帆展帆には、6月
 6日の総帆展帆に参加できなかった
 た、残りの第6次展帆ボランティア
 の方も参加される予定です。



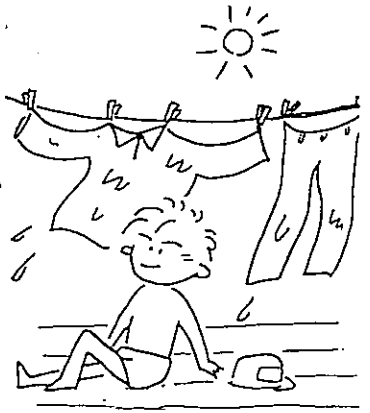
海洋洋行教室開かれ、
 海王丸では、総帆展帆以外に小
 中学生を対象にした海洋教室を催
 しております。

6月12、13日に今年初めての
 の海洋教室が片貝校下児童クラブ
 を対象に、開催されました。
 海洋教室では、子供達が手旗信
 号の練習、ロープの結び方、避難
 訓練、バウスプリット渡り等をお
 こない、一泊二日の海王丸の船内
 生活を楽しみました。
 海洋教室は、8月の夏休みは予
 定がいつばいですがそれ以外の月
 は、比較的空いています。ボラン
 ティアの方で、子供さんむけに、
 興味のある方は遠慮なくお問い合
 わせください。



「海目生」新湊に寄港
 日本セイルトレーニング協会の帆
 船「海星」(180トン)が
 7/3~7/13まで、乗組員の
 休養と、船体整備をかねて新湊に
 入港する予定です。
 整備期間 7/5~7/10
 作業内容 0900~1700
 主としてニスワーク、一部ギ
 ヤ交換含む。

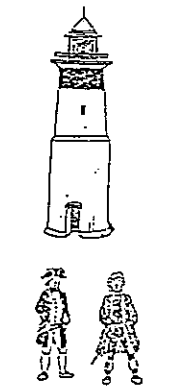
希望者は電話で業務課まで。
 (取り次ぎをします。)
 TEL: 76-82-7834



シリーズ 「海」の草子

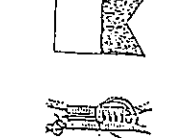
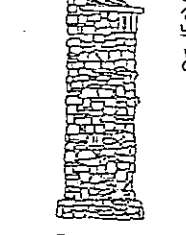
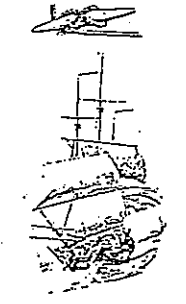
5回目は、パスポートpassport
 についてお話しします。もちろんこ
 れは旅券と呼ばれる政府発行の書
 類で、近年の海外旅行ブームから
 皆様の中にも所持されている方も
 多いことと思います。

この言葉の語源は、海上で生ま
 れた歴とした海軍用語だそうです。
 すなわち、pass(通行する) +
 port(港)がこの語の語源で、言
 葉通りで極めて平凡です。これで
 は、うんちくを傾けるほどのこと
 はなくなってしまうかもしれませんが、
 平凡が故に却つてもつた面白い
 解釈があります。(藤井)



これは、英語のmaster key(親
 鍵)が、フランス語では passe-
 partout と言い、これが passe-
 partout + partout (partout) の意
 であることから、入手すれば大手
 をふって通行できる政府発行の旅
 券を passe-partout になぞらえ、さ
 らに転じて英語の passport にな
 ったというものです。この説は、
 一七世紀にはヨーロッパに広く流
 布していたようで、いかにももつ
 ともらしい説ですが、そもそも
 passportとは、戦時に商船に対し
 海軍から交付された通行許可証を
 意味したもので、当然海軍用語な
 のです。

これでは物足りない感じがしま
 すので、余談を一つ。皆さんは船
 員手帳というものを存じですか?
 もちろんこれは職業として船に乗
 り組むものが所持する書類ですが
 有効期間十年の一種のパスポート
 なのです。しかも自分が雇われて
 いる船で入出国さえすれば、一般
 の旅券では入国する場合あらかじ
 め必要となることが多い、ビザ(査
 証)をとつたりする必要もない
 すぐれものなのです。もつとも旅
 券とは異なり、大変地味な、むし
 ろ野暮ったい手帳で、内容ほどの
 ありがたみは感じられませんが。
 さて、富山・ソウル間の国際航
 空路線も、オープンして二カ月を
 迎えようとしています。ソウル
 行きのアジア航空の機内で、パ
 スポートのお話でちよつと一杯な
 んで、夢ですかね? (藤井)



波の彼方まで

どなたも一度は、沖をゆく船を
 見て遠い外国に思いを馳せたり、
 豪華客船での船旅を夢みたりした
 事があると思います。さて、ボラ
 ティアのなかには、練習船での
 航海を体験された方も何名かいら
 っしゃるようですが、この練習船
 での遠洋航海中に船の上で、何が
 行われているのか不思議に思われ
 ている方も多いと思います。そこ
 で、今回から航海中の出来事をい
 くつかご紹介しようと思います。
 さて、第一回目の今回は、洋上
 で体験した不思議な現象を皆さん
 にも内緒でお教えしましょう。

① グリーンフラッシュ
 これは、簡単に言えば、太陽が
 水平線に沈んでしまう直前に(も
 ししくは日の出の直前)太陽の表面
 が一瞬グリーンに輝く現象です。



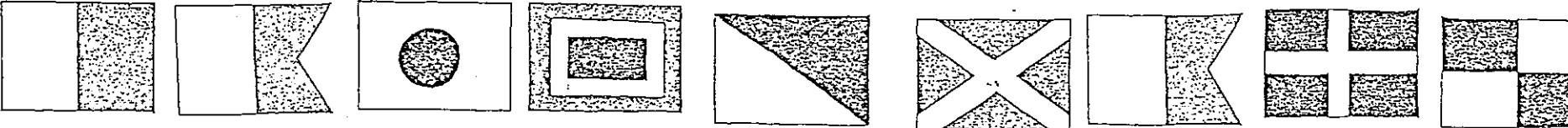
原因は、光の屈折率の違いで、
 我々の目には太陽面がグリーンに
 変色している様に見えるのだそう
 です。

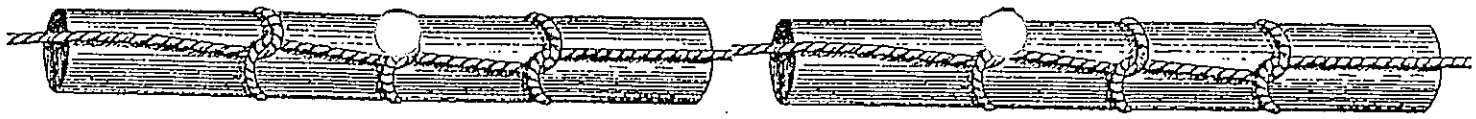
さて、遠洋航海中には、毎日の
 日没時間を算出し、船内に「日没
 5分前、夜航海に備え」とマイク
 で知らせます。さあ、ここからが
 当直航海士の責任です。太陽の沈
 んでいく水平線付近をじっと眺め
 雲や降水域が無いか見極めてます。
 そこで、「今日はグリーンフラッ
 シュが見えそうだな」と確信が持
 ったなら船内にマイクでこう知ら
 せるのです。「本日は、グリーン
 フラッシュが見えそうである」と。

すると夕食が終わり、暇を持て余

していると夕食が終わり、暇を持て余
 していた実習生がぞろぞろと甲板
 が上がって来ます。しかし、自信
 を持ってマイクした時に限って日
 没直前に雲に隠れてしまい、期待
 はずれに終わってしまう場合が多
 々あるのです。私の場合もそうで
 した。このような事を何回か繰り返
 していきうちに、マイクしても甲
 板に出て来る実習生の数が次第に
 減少していききました。そこであ
 り、見えそうな予感を感じたので
 が、マイクをする自信がなくなり、黙
 っていたのです。すると、どうで
 しよう、バッチリとグリーンフラ
 ッシュが見えたのです。丁度、夕
 食時であった為、船橋には私と数
 名の実習生しか居らず、全員がそ
 れに釘付けとなり、素晴らしい「
 ショー」を充分堪能しました。
 そこで、誰かがつぶやきました。
 「これで幸せになれる」と。
 そうです、グリーンフラッシュを
 見た者は幸せになれるとの言い伝
 えがあるのです。

皆さんも船に乗られる機会があ
 りましたら、日没頃甲板に出てき
 てみてはいかがでしょうか。素晴
 らしい光景に出会えるかもしれま
 せん。
 さて、今回は「セント・エルモ
 ス・ファイヤー」についてお話し
 します。(川路)





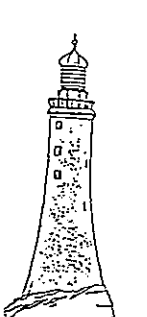
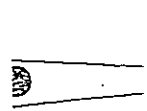
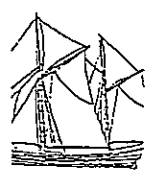
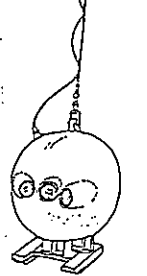
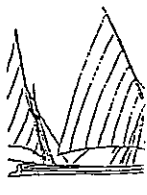
或る心れ得ぬ航海

網島重胤

眼を閉じれば見渡す限り海と空だけの、視野一杯の大海原の中のケシ粒の如き日本丸に真黒い雲と嵐が牙をむいて襲いかかる様子が想像に難くない。

「訓練の成果を喜び乗組員の労苦をしのび安着を待つ。」との江戸の親分の言葉を戴き、あとはただ帰るだけ、各人それぞれの想いを胸に気持ちは早くも故郷の地へと、だがどっこいそう簡単に帰りの切符はやらぬとばかりに、青い目のネエちゃんにつかまつた。

名はアリス。昭和47年8月、サンフランシスコからハワイのマウイ島を経て神戸に向かっていた日本丸が台風アリスと接近、やむを得ず中心の20海里前を横切った。気圧976ミリバール、最大風速80ノット、ピユーフオート階級の12をオーバーし、それ以上の階級はない。轟轟と鳴る風の音、山のようなうねり、風浪は波がしらを吹きちぎられ、海面はにえたぎった湯のようでもあり、その上雪原のように白く、水平線はもとより視界は全く見えざられ、右舷後方よりベンチレーターにあたる雨としぶきは紙を引き裂くようなバリバリという音をたてていた。私の記憶に間違いがなければヤードはスケアー、ロアトトップスル3枚、インナージブ、ジガーステイスルの5枚を掲げ、各セーラーにはプリペンターシートを取り、操舵は船橋にて、安全のためにデッキ上には一人も出ず最善を期された。左舷に45度、右舷に25度位の動揺を繰り返しながら日本丸は狂ったように走り続け



チヨツサーからの お知らせ!

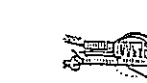
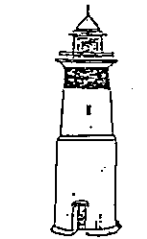
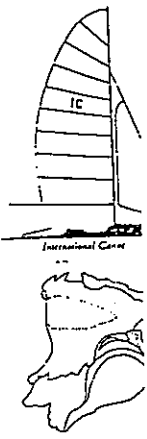
た。ドーンという腹の底に響くにぶい音と、そして断末魔の悲鳴にも似た船体をゆさぶるこまごまの振動と共に右舷サイドに当たった波がデッキ上の建物を飛び越えて左舷側へものすごい量の海水となつて降り注ぐ。一瞬船が折れたと背筋に冷たいものが走る。かつて経験した事もないものすごい自然の猛威に私の体は震え上がった。



30年以上船上に乗っていて私はこの時程、海が恐ろしいと感じたことはない。そして若し無事で帰ったら子供の言う無理は何でも聞いてやるうとさえ思った。恐怖の一夜が明け、台風通過後の三角波による不規則な動揺の中で、流れる様な雲の切れ間より時折、顔を出す太陽の何と有難く感じたことか!! 自然に対しては敬けんであれど、そしてみんなで一致協力して立ち向かえ、と教えてくれた。

帆船による台風避航法を身を持って体験したという事よりも水びたしになつた倉庫の整理に追われていた時、ふと顔が合った船長の嬉しそうな全身のこれ笑顔、私の脳裡を離れない。今は亡き故、児玉正作船長の御冥福を祈つてやみません。合掌。

参考
20海里
距離で37キロメートル
80ノット
41.2m/秒
ピユーフオート階級
風の強さを示す指針で、12は風速32.7m/秒、以上の階級をいう。一般的には波は波高1.4mを超える巨浪となる。
ベンチレーター
船内への空気取入れ筒



- ① 展覧ボランティア
宿泊研修の実施について
ご希望の多かった海王丸での宿泊研修を、以下のとおり実施いたしますので、奮ってご参加下さい。
- ② 実施予定日時
七月三日午後五時から
四日午前九時まで
- ③ 受け入れ人数
先着八十名まで
- ④ 参加費用
二千円程度
- ⑤ 食事代、飲物代、洗濯代
- ⑥ 申し込み締め切り
六月二十五日(金)まで
- ⑦ 申し込み方法
直接電話で、業務課まで。
0766-82-7084
- ⑧ 研修スケジュール
別添のとおり。



二 薫籍の輪旋について
帆船に関する本を輪旋します。
題名
「セイル・ボー」若き日の帆船生活

著者
サイ・ジエームズ・ピセット
訳者
佐野修、大杉勇

この本は、イギリスの名船長が帆船で送った若き日の体験を書き綴つた名著を、日本の帆船乗りである佐野船長(前・海技大学校長)と、大杉船長(現・航海訓練所長)が、その体験を踏まえてわかり易く訳したものです。

今回、訳者のサイン入りで、しかも定価二千二百円を千八百円で斡旋できることになりました。この機会をお見逃しなく!

第7次 展覧ボランティア

募集の目安
安内内

現在海王丸の展覧ボランティアの訓練を受けた方は延べ316名にのほりますが、平成5年度下半期においては第7次の展覧ボランティアを募集します。ボランティアの皆さんの友達、知合いの中で、「自分も海王丸の帆を張ってみたい。」という方がおいでましたらご紹介ください。

募集人数 40名
募集資格
原則として18歳以上の健康な方

募集期限
平成5年8月8日(日)
申し込み先
(財)帆船海王丸記念財団 業務課
Tel 0766-82-5181 7084



あつがき
6月6日は第6次展覧ボランティアが初めて参加した総帆展覧でした。この日は、久しぶりに100名を超える展覧ボランティアの方々が参加し、ボランティア間の友好の輪を広げたように感じます。

梅雨の頃となり、じめじめとした日が続くこの頃です。海王丸のハンドレールも苔むす(?)のもこの時期、業務課員一同、船を腐らせてはならじと整備作業に励んでいます。船はほつておけば、すぐに傷みます。現役の時には、70名近くの乗組員と、約100名の実習生が毎日、手入れをしていた「海王丸」。

そして引退後も、ボランティアの皆様のご協力を得て「生きた船」として世界に例をみない活用のされかたをしている船齢63年の歴史的建造物「海王丸」をできるだけ長く、皆様に接していただけるよう努力していきたいと、財団職員一同考えています。



イラスト 野村 希世 さん

